

新島襄の略歴

新島の生涯

- 第1ステージ
 - 「新島 七五三太(しめた)」の時代
- 第2ステージ
 - 「ジョゼフ・ニイシマ」の時代
- 第3ステージ
 - 「新島 襄」の時代

- 第1ステージ
「新島七五三太」の時代
1843～1864年

新島の誕生

- 1843年、江戸の安中藩邸で生まれる。
- 上州(群馬県)系江戸っ子
- 21歳まで藩邸内で暮らす。
- 誕生日は、旧暦の1月14日、新暦の2月12日。

サムライの子として

- 父・民治は安中藩士、職務は祐筆(書記)
- 新島は「サムライ」の子。
「サムライ」としての自己理解を持つ。

藩邸での生活

- 一辺が約125メートルのほぼ正方形の中

旅の経験（１）

- **安中への旅**
 - 1861年、19歳のとき
 - 藩主の護衛として

7

旅の経験（２）

- **玉島（現在の倉敷市）への航海**
 - 1862年、20歳のとき
 - 自由を満喫する。
 - 「家出」「脱国」願望が高まる。

8

密出国への刺激を与えた書物（１）

- 『**連邦志略**』
 - 中国に派遣されていたアメリカ人宣教師（ブリッジマン）が漢文で書いた。
 - 大統領選挙を知り「脳がとろけ出そう」になるほど驚嘆。

9

密出国への刺激を与えた書物（２）

- 『**ロビンソン・クルーソー物語**』
 - 「冒険」への野望を駆り立てられる。
- **その他の書物**
 - キリスト教にも触れる。

10

密出国（1864年）

- **快風丸への乗船**
 - 出港準備は一週間。
 - 一年間の函館留学が名目。

11

函館から上海へ

- **函館から上海へ**
 - ニコライ神父（ハリストス正教会）との出会い
 - ベルリン号（セイヴォリー船長）に乗船。

12



13

上海からボストンへ

•上海からボストンへ

- ワイルド・ローバー号(テイラー船長)に乗船。
- 太刀を船長に船賃として渡し、小刀は買ってもらった(漢訳聖書を買うため)。



14



15

• 第2ステージ

「ジョゼフ・ニイシマ」
の時代

1864～1874年

16



17

ボストンへ

•テイラー船長との出会い

- 新島を「ジョー」(Joe)と呼ぶ。
- ボストン到着後、船主のハーディーに新島を紹介する。

18

ハーディーとの出会い

- ハーディー宛の手紙
- ハーディーは新島の名前を「ジョー」から「ジョゼフ」に改称する。
 - 以降、新島は **Joseph Neesima** と自称する。

19

新島七五三太から ジョゼフ・ニイシマへ

- 安中藩士から国際人へ
- サムライからクリスチャンへ
 - 大小二本の日本刀を手放す。
 - 香港で漢訳聖書を買う。

20

アメリカでの学び (1)

- フィリップス・アカデミー時代
 - 1865～1867年。
 - 1866年、アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受け、クリスチャンになる。

21

アメリカでの学び (2)

- アーモスト大学時代
 - 1867～1870年

22

AMHERST COLLEGE

Home > About Amherst > Amherst History

A History of Amherst College

In 1821 a broad group of local people in and around Amherst worked together to create an institution of higher learning for the education of indigent young men of piety and talents for the Christian ministry (as the call for donations to the initial endowment, the Charity Fund, phrased it).

Noah Webster, already well known from his textbooks and dictionaries, played a vital role in fundraising and in shaping the institution. He had served as a trustee of Amherst Academy since its incorporation in 1815, and was president of its board of trustees during the crucial 1820-21 period, when Amherst College was formed.

Edward Jones, Class of 1826, Webster had been on the committee formed in 1818 for the Academy's trustees. In 1821,

Joseph Hardy Neesima, Class of 1870

Help | Log in | Search | Campus directory | Find alumni | Site map | Go directly to...

23

アメリカでの学び (3)

- アンドーヴァー神学校時代
 - 1870年～1874年
 - アメリカン・ボードと一体の学校。
 - 在学中「岩倉使節団」と出会う。
 - 一年間、休学してヨーロッパへ。

24

ヨーロッパ視察

- **教育視察**
 - 木戸孝允、田中不二麿らと出会う。
- **ベルリンで報告書作成**
 - 後に文部省から『理事功程』として出版される。

25

宣教師として帰国

- **準宣教師に**
 - 1874年、アメリカン・ボードから任命される。
- **帰国前の改称**
 - Joseph **Hardy** Neesimaに

26

ラットランド演説

- **キリスト教の学校を**
 - 日本にキリスト教の学校を作りたいという涙ながらの訴えをする。
 - 5000ドルの献金を得る。これが同志社の開校資金となった。

27

- **第3ステージ**
「新島 襄」の時代
1874～1890年

28

帰国

- **名前の日本表記**
 - 在米中、「約瑟」(ジョゼフ)
 - 新島 讓 → 新島 襄
- **安中でキリスト教伝道**
 - 安中教会の誕生、湯浅治郎の働き

29

大阪へ (1875年)

- **大阪のゴードンのもとへ**
 - 神戸のデイヴィスの賛同を得て、キリスト教学校設立を目指す。
- **大阪での挫折**
 - 学校設立が頓挫する。

30

京都での出会い

- **山本覚馬 との出会い**
 - 「私塾開業願」を府に提出
 - 新島と山本が発起人



31

京都での開校

- **同志社英学校の設立**
 - 1875年11月29日
 - 現在の「新島旧邸」「新島会館」の場所
- **翌年正月、山本八重と結婚**
 - 八重は戊辰戦争の際、会津若松城に籠城し「西軍」と戦闘

32

新島八重 (1845-1932)

- 会津のジャンヌ・ダルクとして
- 同志社のハンサム・ウーマンとして
- 日本のナイチンゲールとして



33

八重の墓前で (9/18)



34

今出川校地の始まり

- **1876年、校地を移転**
 - [参考]1986年、京田辺キャンパス
- **同志社への攻撃**
 - 仏教徒や保守的な市民からの激しい攻撃
- **「熊本バンド」の入学**

35



36

教会の形成

- 1876年、三つの教会
 - 後に平安教会、同志社教会となる。
- 宗教者としての新島
 - 牧師、宣教師としての活動

37

新島の晩年の関心（1）

- 教会合同運動
 - 長老派と会衆派の合同運動に対し、新島は批判的な立場を取った。

38

新島の晩年の関心（2）

- 同志社大学設立運動
 - キリスト教主義に立脚する総合大学を設立することは、新島の「宿志」であった。
 - 募金運動、欧米旅行
 - 1886年、宮城英学校（同志社の分校）を設立。

39

新島の最期

- 1889年、関東での募金活動
 - 前橋で倒れ、神奈川県大磯で療養。
- 1890年1月23日死去（46歳）
 - 「尚壮図を抱いてこの春を迎ふ」

40



41

新島の葬儀

- 生徒たちの出迎え
 - 新島の遺体が京都駅に着くのを深夜まで待つ。
- 若王子の墓地へ
 - 葬儀の後、生徒たちは、若王子山頂の墓地まで棺を交互に担いでいく。

42